

学位論文審査結果の要旨

令和 7 年 2 月 15 日

学位論文題目： Differences in attitude and experience between Japanese people towards
Kampo medicines and Taiwanese people towards traditional Chinese medicines

学位申請者 莊正宇

審査委員 主査 新井一郎

副査 袴塚高志

副査 山路誠一



漢方薬や中薬などの伝統薬の使用実態調査と称するものは、過去にいくつかあるが、それらは特定集団における調査がほとんどであり、その結果が、実際の状況を示しているかどうかは明らかでなかった。本研究は、選択バイアスの少ない方法で、日本と台湾の一般市民多数に調査を行うことで、はじめて、両地域の伝統薬の使用実態を消費者側から示したことの意義は大きいと考える。

一般市民において調査を行う場合、市民の知識レベルのばらつきにより、質問の解釈が大きく異なる場合がある。特に我が国においては、漢方薬の認識には市民間で大きな格差があり、販売されている漢方薬の名前がカタカナの商品名であったりするため、漢方薬の服用経験ひとつとっても、正確な結果を得ることは難しいという問題があった。そこで、日本調査においては、消費者が、その質問をどのように解釈するかを消費者目線で精査した上で質問票を作成したことにより、得られた結果が実態を正しく表現できた。

また、日本では、伝統薬は、一般医療の中で使われており、伝統薬だけを処方・調剤する医療者は存在しない。しかし、台湾では、現代医療、伝統医療の二元的医療制度をとっており、日本とは伝統医学が使用される基盤が大きく異なっている。日本と台湾の伝統薬の使用実態、消費者意識を比較するに当たっては、全く同じ質問をして比較するという単純な方法論では、両者の比較は困難である。申請者は台湾出身であることから、台湾人の伝統薬に対する基本的な考え方を理解しており、そのことを基盤にしつつ、過去の調査報告も参考にしながら、日台比較が可能になる台湾での質問票を、日本での質問票をもとに作成し調査を行ったことにより、日台の一般市民の伝統薬に対する意識を正確に比較・把握することができた。このような比較は過去には行われたことはなく、申請者の研究で初めて明らかになったことである。

これらの結果は英語で日本、台湾の学術雑誌に投稿され、査読対応も適切に対応して上で掲載された。また、これに先立ち、2つの国際学会発表において、英語でオーラル発表を行い、座長からの質問にも適切に答えられている。

Cheng-Yu Chuang, Hui-Yu Chung, Peng Yuan Li, Chika Uehara, Masayo Taira, Osami Takeda, Yoshiaki Nagashima, Masayuki Honda, Fu-Shih Chen, Ichiro Arai. A survey of

Japanese people's attitude and experience on Kampo medicines, Japanese traditional medicines. The 10th Asian Association of Schools of Pharmacy (AASP) Conference. Jul 31, 2022, On Line.

Cheng-Yu Chuang, Hui-Yu Chung, Fu-Shih Chen, Ichiro Arai. A survey of Taiwanese people's attitude and experience on Traditional Chinese medicines. The 11th Asian Association of Schools of Pharmacy (AASP) Conference. Aug 5, 2023, Macau.

学位論文発表会における発表もわかりやすいものであった。

以上のことから、申請者は、今後、薬学研究者として、自立して研究を計画・実施・報告できる能力を有していると考えられるため、薬学（博士）に値すると判断できる。